

魔法のダイアリー プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 八重樫美由紀

所属: 岩手県立盛岡青松支援学校

記録日: 31年 2月 9日

キーワード: 読み書きの支援、学び方、学習意欲、自信、不安、自己肯定感、ストレス、不登校、家庭学習、漢字、日記

【対象児の情報】

○学年 小学部 5年生

○障害名 病弱、読み書き障害の疑い

○障害と困難の内容

- ・ 病弱支援学校小学部 5年生に在籍し、隣設の小児病院から通学している。
- ・ 前籍校では不登校傾向があったため、学習空白がある。
- ・ 教科学習において一斉指導では学習内容の理解が難しく、個別の配慮が必要である。
- ・ 漢字の読みと書きについては、かなりの苦手さがある。
- ・ WISC-IVの結果から、作業能力は高いが、語彙力や言語理解の力には支援を要する結果であった。URAWSSの結果では、書き速度 A 評価、読み速度 A 評価、内容理解全問正解であった。

【活動目的】

○当初のねらい

1. 自分に合った読み書きの学習方法を知り、前向きに取り組むことができる。
2. 不安な気持ちを取り除き、安心して学校生活を送ることができる。

○実施期間 平成 30 年 5 月から平成 31 年 2 月

○実施者 八重樫美由紀

○実施者と対象児の関係 担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

〈病状について〉

- ・ 5年生の始業式の翌日から入院し、本校に4月中旬に転校してきた。
- ・ これまで、転校を2回しており、どの学校でも不登校傾向があった。
- ・ 運動会や外出等の新しいことへの不安が強く、身体症状が出る。状況判断が苦手な悪い方に思い込む傾向がある。

〈生活面について〉

- ・ 運動することが好きで、マラソンにも一生懸命に取り組むことができる。また、一輪車に乗ることを得意としている。
- ・ 以前は同年代の友達と遊ぶことは少なく、下級生と遊ぶことが多かった。
- ・ 一斉の指示を聞き漏らすことがあり、友達に教えてもらって行動することがよくある。視覚的に提示することで、自分で確認しながら行動することができる。

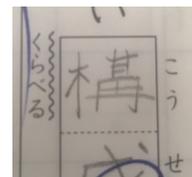
〈読みについて〉

- ・ 漢字の読みの定着状況は5年生5月頃の単元テストで3割程だった。しかし、できる見通しをもつことで、前向きに取り組もうとする。
- ・ 国語の読み取り問題が苦手である。漢字の苦手さを自覚しており、漢字のある文章への不安がある。

- ・ ルビ付きの既習の文章の読み取りは時間がかかるがある程度できる。しかし、初見の文章の読み取りはルビ付きでもかなり難しい状態である。その原因は、語彙の少なさと読むことで精一杯になってしまい、内容をイメージすることができない状態になっていることも影響していると思われる。
- ・ 間違い直しの時に読み上げによって正確に答えることができる。読み上げによって、安心して取り組むことができる。
- ・ 初見の文章の音読では、流暢性や正確さが低くなってしまう。既習の文章では上手に音読できる。ルビがあっても初見の文章では読み違いや引っ掛かりがある。語彙の少なさや状況をイメージすることの苦手さが原因であると思われる。しかし、ルビがあることで、読みへのストレスはかなり低くなる。

〈書きについて〉

- ・ 漢字をなかなか覚えることができない。漢字のノートで同じ漢字を練習しても定着しないことがある。漢字の細部が間違っていることがよくある。正確に文字を見ることが苦手である。
- ・ 書くスピードが遅く、他の児童の2倍近く板書を写す時間がかかる。板書する箇所をiPadの画面に写し、そのiPadを机の上に置いて写すと書くスピードが速くなった。一度に覚えておくことができる文字数が少ないためか、何度も確認しながら書く。
- ・ 文章を書く時に、漢字をあまり使おうとせず、送り仮名の間違いや言葉の使い方の間違いが目立つ。
- ・ 平仮名の表記の間違いはない。
- ・ 聞いて書くことは苦手である。聞き漏らしてしまい、個別の対応が必要になることが多い。
- ・ 考えて書く事は、時間はかかるができる。運動会の作文では、自分の思いも書くことができる。
- ・ 普段から口数はあまり多くない。作文での書き言葉や日頃の話し言葉からも語彙力が低い。



〈学習全般について〉

- ・ 知的な遅れはないが、学び方に特性があると思われる。学び方の特性に合った支援をし、小学校に戻ってからも学習参加ができるような手立てが必要である。
- ・ 不登校傾向があったため、学習空白がある。本人も自覚しており、「休んでいて習っていないのでわかりません。」と不安な表情で言うことがあった。
- ・ 授業に参加し、学習空白の部分を補いながら学習することによって、該当学年の基本的な内容は理解できる。
- ・ 家庭学習は自分でできる手立てを組むことで、毎日取り組む事ができる。

○活動の具体的内容

1. 自分に合った読み書きの学習方法を知り、前向きに取り組むことができる。

自分に合う方法で漢字学習ができるようにする。

◇漢字の読み

- ・ 自分で調べる手立てを理解することで漢字学習の意欲を持続させ、自信に繋げる。



○自分で調べて読む手立てとして 「もじカメ」「常用漢字筆順辞典」

○学習する漢字を使った熟語の意味を理解し、定着を助ける手立てとして

「例解学習国語辞典」・「わたしの読み上げ単語帳」

- ・ 語彙を増やすことへ繋げる。新出漢字を使った熟語の意味を「例解学習国語辞典」で調べ、単語帳アプリ「わたしの読み上げ単語帳」に打ち込んで記憶する。



◇漢字の書き

- ・ 自尊心を考慮して、該当学年の内容を学習する。
- 自分で調べて書く手立てとして 「例解学習国語辞典」
- 確認しながら正しく書く手立てとして 「小5漢字ドリル」



自分に合う方法で文章の読み取りができるようにする。

◇漢字のある文章の読み

- 漢字のある文章への苦手意識を減らす手立てとして DAISY 教科書、「デージーポッド」

- ・ 国語の学習では、新しい単元の教材文にルビ付けながら漢字の読みを確認し、漢字のある文章への不安や文章を読む時の漢字の読みへの負荷を軽減できるようにする。
- ・ 大まかな内容を理解してから授業に参加することで、安心して授業内容の理解に集中できるようにする。



○単元テストの漢字の読み

- ・ 既習の文章の学習や単元テストではルビ付きの問題用紙を使用し、漢字のある文章への不安感と漢字の読みの想起での負担を軽減し、テストの解答へ集中できるようにする。

自分に合う方法でノートテイクができるようにする。

○ノートテイクの量の調整

- ・ 授業時間は説明を聞くことにも集中できるようにするために、板書をする量は最小限にする。小学校の通常学級に戻ってからも継続できるように、書く方法を自分で選択できるようにする。

- 書き残した板書を補う手立てとして 「マナーカメラ」

- ・ 板書を「マナーカメラ」で撮影し、iPadで板書の画像を見ながらノートに書く。
- ・ 隙間時間に必要な部分だけ書き加えるようにする。



2. 不安な気持ちを取り除き、安心して学校生活を送ることができる。

学習空白等による学習への不安を解消する。

- 学習空白を解消する手立てとして 「おうちゼミ」



遠隔授業システム「palstep」、動画教材「やさしくまるごと算数」、PCソフトの「わかる算数！小学4年」「わかる算数！小学5年」

- ・ 学習の進度を視覚的に分かるように学習履歴によって自分の学習空白が減っていくことを確認しできるようにする。
- ・ 動画を見て、問題に答える学習を個別学習で行う。
- ・ 個別指導は、週2回の自立活動の時間（45分）と毎日の国語（15分程度）と算数（45分）の個別学習の時間に実施する。
- ・ 通常の教育課程で学習する為、学習時間の確保の問題から、教科は国語と算数とする。

不安な気持ちを早期に発見し解決する。

- 不安な気持ちを早期に発見する手立てとして 「RecoEmo」

- ・ 日々の気持ちを自分で入力し、気持ちの変化に早期に気づくことができるようにする。
- ・ 楽しい時、怒った時、悲しい時、嬉しい時のボタンを押して、簡単に自分の気持ちを記録し



ていく。日記を書くことで、その気持ちの原因となる出来事に気付くことができるようになる。

○不安の原因を解決する手立てとして **「SimpleMind+」**

- ・ 不安な気持ちの原因や解決方法を教師と一緒に考え、マッピングアプリに打ち込んでいく。視覚的に整理することによって、違う視点から状況をとらえることができるようになる。



○対象児の事後の変化

1. 自分に合った読み書きの学習方法を知り、前向きに取り組むことができるようにする。

自分に合う方法で漢字学習ができるようにする。

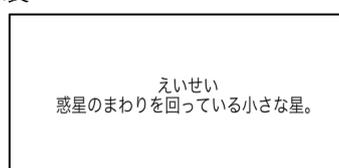
漢字の読みの学習は、熟語の意味を「例解学習国語辞典」で意味を調べ、単語帳アプリ「わたしの読み上げ単語帳」に単語の意味も書いて学習した。漢字の読みの小テストで定着を確かめ、合格した熟語は書きの練習に進んだ。

漢字の書きの練習は「小5漢字ドリル」で、一日3字ずつ取り組んだ。漢字の学習が順調に進むようになると、漢字の数を増やしても良いという本人の了解を得て4字に増やしたが定着の様子は変わらず良かった。漢字の学習方法を理解し、家庭学習でも自分で漢字の学習をすることができた。

表



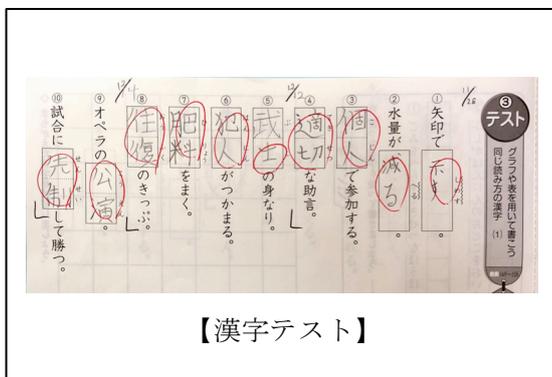
裏



【わたしの読み上げ単語帳】



【小5漢字ドリル】



【漢字テスト】

また、「もじカメ」や「常用漢字筆順辞典」を使って読みを自分で調べることができた。調べた読み方の意味を「例解学習国語辞典」で調べることによって、意味と読みを関連させながら学習した。

漢字の書きの小テストに合格できた日にとっても喜んでいた。なぜ、合格できたのか対象児と一緒に振り返りをしてみると、読みの練習をしてから書きの練習することで覚えることができたということが分かった。その後、漢字テストへの取り組みの様子が前向きになってきた。



【「もじカメ」で漢字の読みを調べて、問題練習に取り組む様子】



【漢字の熟語の意味を調べてから練習する様子】

自分に合う方法で文章の読み取りができるようにする。

「デジポット」に「DAISY 教科書」をダウンロードして、国語の教材文の学習に入る前に教科書に自分でルビを振ったり、大まかな内容の理解をしたりすることに活用した。それによって、漢字にルビの無い文章への不安や文章を読む時の漢字の読みへの負担を軽減できた。「読み仮名を書いてあるから大丈夫です。」と言うほど、国語の一斉指導の時間での意欲的な表情や態度が増えてきた。また、「DAISY 教科書」の操作方法もすぐ覚え、音読の宿題の時に、自分で「DAISY 教科書」を活用しながらルビを振ることができた。

介入当初は単元テストでルビ付きを使用し、漢字のある文章への不安感と漢字の読みの想起での負担を軽減し、テストの解答へ集中できるようにした。ルビがある単元のテストの漢字以外の内容は7割以上得点している。また、10月頃からはルビのないテストでも最後まで諦めないで解答できるようになってきた。分からない漢字があっても前後の文脈から言葉の読みを推測しながら取り組むことができるようになってきた。

「もじカメ」で漢字の読みを調べながら学習した時はとても意欲的だったので、この方法は効果的だと思う。しかし、高学年なので、文章の量が多く、「もじカメ」でいちいち調べるわけにはいなくなってくるので、分からない漢字の読みを推測しながら取り組む力は必要である。そこで「わからない漢字があっても、予想しながらやってみると良いよ。」「分からない漢字は聞いて良いよ。」とアドバイスした。すると、ルビのないテストやプリントにも取り組むようになり、そして分からない漢字を聞くことはなかった。漢字の学習が順調に進んでいたため、漢字への苦手意識が減り、頑張ってみようという気持ちになれたのではないと思われる。解答の際、書けずに空欄のままの問題が少なくなり、得点も良くなってきた。また、帰りの会の頑張り発表で「テストで最後まで書けました。」と言ったり、テストの良い点数を見て「わからない漢字があっても大丈夫。」と、本人も喜んだりしていた。

The image shows a page from a Japanese textbook with the title "6 天気予想する" (6 Forecasting the weather). The page contains several paragraphs of text and a photograph of Mount Fuji. Handwritten annotations in red and blue ink are present throughout the page, including underlines, circles, and arrows. On the right side, there is a score of 90 written in a red box, with "各10点" (10 points each) written below it. The page also features a sidebar with the text "国語 5年(2) 読む能力" and "138~136".

【高得点を取ったルビの無いテスト】

自分に合う方法でノートテイクができるようにする。

URAWSSの結果から、書きの速度には問題がないことが分かった。WISC-IVの結果からは処理速度が最も強い力で言語理解が最も弱い力ということも分かった。自分の言葉で書く文章は速く書くことができる。しかし、実際に板書をノートに書く時間は他の児童に比べて1.3倍はかかる。ノートテイクに時間がかかるのは、語彙の少なさと、みんなと同じ速さで書こうというストレスがあるためと考えられる。一斉授業でのノートテイクの時になると、表情が硬くなり必死に書いている状態である。しかし、個別の時間にiPadを見て書くのは比較的速く、その日のうちにノートテイクは終了している。その原因は、時間的なストレスが少ないこと、iPadを見て書くことによる視線移動の距離の短縮と、「書く」ことに専念できることではないかと考えられる。

小学校の通常学級に戻ってからもノートテイクの方法が継続できるように、教師側の配慮として板書をする量は最小限にし、書く時と聞く時の区別をはっきりつけた。また、徐々に書くスピードが増してきた為もあり、授業時間は安心して説明を聞くことにも集中できるようになってきた。

2. 不安な気持ちを取り除き、安心して小学校に戻ることができるようにする。

学習空白等による学習への不安を解消する。

4年生の「おうちゼミ」や「わかる算数！小学4年」の動画を見て、問題に答える学習をし、学習履歴によって学習状況を自分でも確認しながら取り組むことができた。4年生の内容の学習は終了した。その後、「palstep」、と動画教材「やさしくまるごと算数」でレディネス確認をしてから、「わかる算数！小学5年」で5年生の内容の学習をした。自分の理解のスピードに合わせて学習できるため、学習内容の定着が良くなってきた。算数の学習空白が減り、本児も喜んでいて。

「palstep」や動画教材の「やさしくまるごと算数」を活用し、レディネスの定着を図り安心して新しい単元の学習に入ることができた。分からない時は動画で確認しながら、家庭学習でも算数の基礎を復習することができる方法を身につけることができた。

不安な気持ちを早期に発見し解決する。

個別学習の初めに「RecoEmo」に短時間でその日の気持ちを打ち込むことができた。何か気持ちの変化があった時は、教師と一緒にその原因を「SimpleMind+」に打ち込みながら確認し、状況を視覚化することで正確に理解し、解決方法を考えることができた。不安定な気持ちを整理してから学習に向かうことができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

(1) 自分に合った漢字や算数の学習方法が分かり、できた経験が自信に繋がった。

分かる見通しをもつことで、学習意欲が高まったと思われる。調べると漢字の読みが分かるという体験を繰り返すことで、漢字学習への意欲を持続させることができた。また、算数の学習についても、分からない時は先生に聞くだけでなく、自分で動画を見て確認することで理解できたという経験を繰り返し自信が付くことによって、学習空白の内容の学習を意欲的に進めることができた。学習空白が減っていくことで、学習への自信が増してきたと思われる。

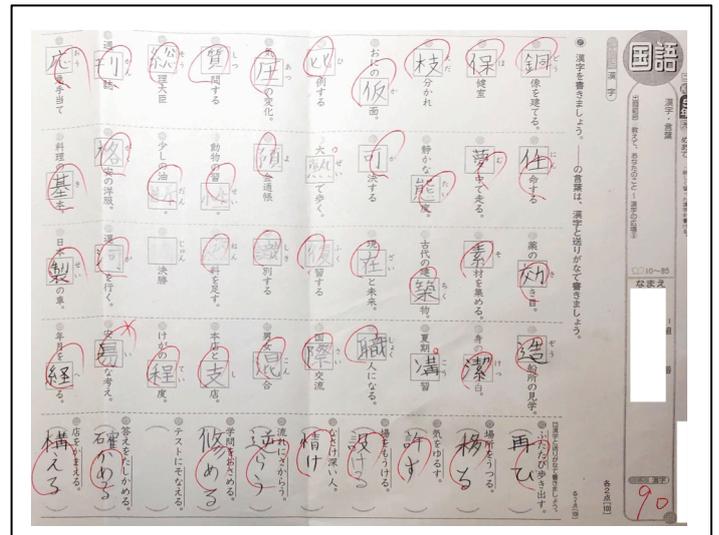
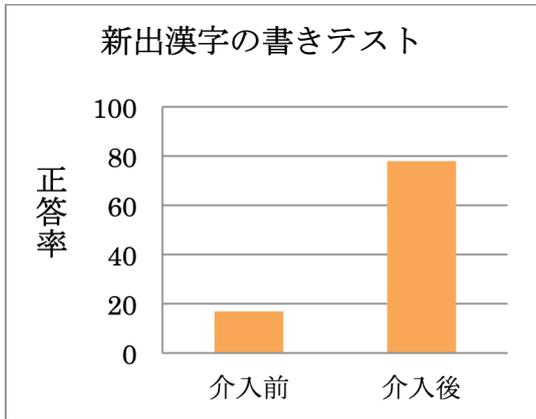
(2) 自分の気持ちや状況を視覚化し、整理しながら考えることができるようになってきた。

不安やイライラの原因を視覚化し、教師と解決方法を考えることにより、前向きな考え方ができるようになってきた。介入前のように思い込みで判断したり、悪い方に考えてしまったりすることを防ぐ有効な方法である。教師のように他の人の考え方を聞くことにより、良い解決方法が分かることを経験することで、いろいろな情報を参考にして考えてみようとする態度が増し、視野を広げることにもなった。

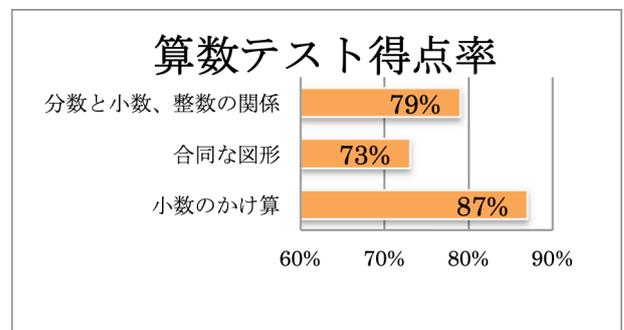
○エビデンス(具体的数値など)

(1) について

- 漢字の書きのテストの結果から、介入後は漢字の読みだけでなく書きの正答率も良くなった。また、漢字50問テストへの取り組みも意欲的になり、45問正解して90点を取ることができた。本児の漢字に対する自信に繋がっている。

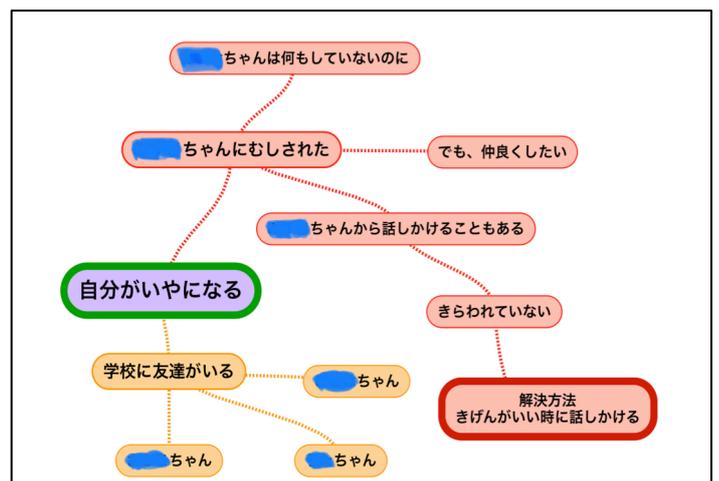


- 算数テストの結果から、3単元については学習空白を減らしレディネスの定着を図ることができた。算数テストで良い結果を、本児もとても喜んでた。また、時間がかかっても最後までテスト問題にチャレンジするようになり、できる見通しが意欲につながっていた。



(2) について

- 気持ちの変化を早期に発見できた。不安の原因と解決方法を視覚化して整理することで、本児から前向きな言葉が出るようになってきた。例えば、朝から表情が悪いので気になって「RecoEmo」への記載を見ると「自分が、なぜか嫌になる。○○ちゃんと○○ちゃんのこと、いっぱいになるどうしたらいいの・・・」というコメントがあった。そこで「SimpleMind+」で「自分がいやになる」ことに対する状況確認と解決方法を話し合うと、最後には「嫌われていない」「機嫌のいい時に話しかける」という前向きな言葉が対象児からも出されるようになったことがある。



他にも学校に友達がいる。一人ぼっちじゃない。



〇〇ちゃんからも話しかけてくる。嫌われていない。

機嫌が良い時に話しかけてみよう。きっと大丈夫。

その他エピソード

- (1) 基本的な生活習慣の確立に自分から取り組む手立てとして。

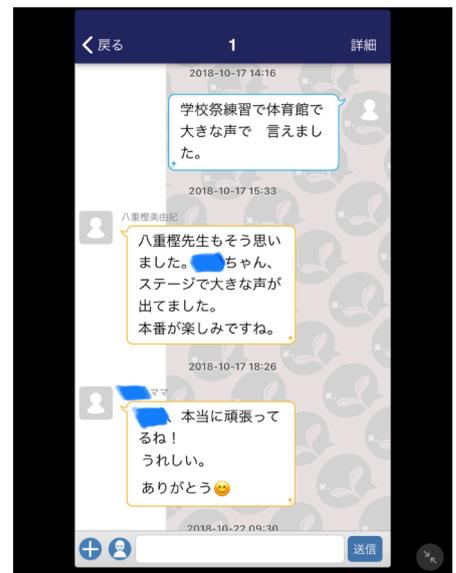


入院生活が長くなり、家庭であれば保護者からの声かけでできる歯磨きや宿題などの取り掛かりがなかなかできない状態が続いた。そこで、自分で気づいて取り組むことができる手立てとして、ライフログアプリ「生活管理スタンプ」を活用した。生活リズムを整えるためにも、対象児と相談して起床や就寝の時間を決めた。また、やるべき事として忘れがちになる歯磨きや毎日の宿題も確認事項に入れた。初めの頃は学校に登校してから確認する事が多かったが、慣れてくると病院で自分から確認することができるようになってきた。やるべき事が何かを繰り返し確認でき、忘れないように気をつける事ができた。言われてからやることへの抵抗も出てくる年齢であるため、主体的に取り組む手立てとしては有効であった。



- (2) 入院生活での不安を解消する手立てとして。

友達関係で悩むようになった頃から朝、登校できないことが何度かあった。そこで、「By Talk for School」を活用し、メールで登校刺激を行なった。朝、担任から連絡すると、登校できたことが多かった。いつでも担任に伝えることができる環境があることで、不安なことがあっても直ぐに解決できる環境をつくる事ができた。



(3) 入院中、離れている保護者との繋がりを強める手立てとして。



「By Talk for School」で保護者と3者のグループを設定し、学校でのがんばりを共有することができた。

入院中、なかなか面会に行くことができない保護者に学校でのがんばりを伝え、褒められることで保護者との心の繋がりを強めることができた。

※「By Talk for School」はクローズドのSNSが可能で、設定した単位以外の交流や通信はブロックできる学校専用アプリのため、安心して使うことができた。

